

# 博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡 / 湯之奥・中山金山

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報

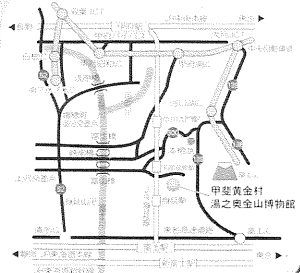


写真 井伏清二筆

場所▼甲斐黄金村・湯之奥金山博物館(多目的ホール)  
観覧時間▼午前9時~午後5時(毎週水曜休館)  
特別展は観覧無料

写真提供 中央公論新社 撮影 増田武久

### 案内図



甲斐黄金村・湯之奥金山博物館

〒409-2947 山梨県南都摩郡身延町上之平1787番地先  
(JR下部温泉駅より徒歩3分)  
TEL.0556-36-0015 FAX.0556-36-0003  
<http://www.town.minobu.lg.jp/local/minobu/kinzan/index.html>

# 富士川流域王国への取り組み

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長 谷 口 一 夫

「オンリーワンの博物館にしたい!!」

## 努力目標と自助努力

私は「博物館は地域活性化の拠点」という認識で館運営に取り組んでいます。館職員の献身的な努力に支えられ、確実にこうした館の使命は果たされ実績を積んで徐々に実をつけ始めています。

教育基本法→社会教育法（生涯学習）→博物館法→登録博物館（湯之奥金山博物館）という仕組みの中で、博物館の使命を全うする公立博物館ですから、学校と同じ教育施設の一つ。町内始め県内外からの小中学校利用、大学の授業の一環である学芸員資格取得のための「博物館実習施設」としても毎年大学生を受け入れたり、10～2月には、著名な先生を講師に招き開かれる「公開講座」、これは今年46～50回を迎えます。しかしながら実はこれだけだと「地域の活性化」になかなかつながらない。そこで多彩な館活動を展開してきました。

国指定史跡「甲斐金山・黒川／中山金山遺跡」のガイダンス館として、日本の金山史／金山遺跡研究の日本における学術的拠点としての活動。

生涯学習機関として子供から成人に至るプログラム展開、特に地域を熟知してもらう為のプログラム展開。企画展・特別展の開催、県内外の金山遺跡見学会、また「こどもの科学する」芽をつくるチャンスの場を提供する「こども金山探険隊」。親子の絆を増すための「親子映画観賞会」は日常の館の業務を終えた後や、休館日利用などで博物館職員には大変な負担がかかっていますが、「オンリーワンの博物館」を目指す職員の努力目標と自助努力があって可能にしています。

## 長期的戦略としての館外活動

さて、博物館運営の長期的戦略には、以上のような館内でできる努力目標と、館外活動によって広域的な側面から館を支える「環境整備の必要性を痛感」します。この環境整備とは地域の

活性化を意味します。そのため、2つの館外活動を実践中です。それは①「東国の金山遺跡と黄金文化」（黄金の国ジパング）の世界遺産登録運動と、②「富士川流域王国」という広域的な観光地化への運動です。

## 王国は流域の広域的活性化運動です

館外活動の一つ「富士川流域王国」は、富士川流域の広域的な活性化運動です。国も県も町も観光を行攻の目玉にしています。これは観光で人が来れば経済効果が出る、雇用の創出が図れる、地域が活性化するという構図です。

山梨県の広域的な観光地と言えどどんな所が挙げられるでしょうか？多くの人は「富士山麓・富士五湖周辺」や「八ヶ岳・清里高原周辺」を挙げるでしょう。これまで「富士川」という凄いブランドがありながら、「舟運」は語られても観光地として目を向けてきませんでした。そこで富士川の本流、上流域を括った富士川流域一帯を山梨県における広域的な観光地として確立したいという、それが「富士川流域王国」の考え方です。「風が吹けば桶屋が儲かる」ではありませんが、広域的に活性化すれば流域市町村も活性化します。その中の文化施設や観光施設にも人が訪れてくれます。湯之奥金山博物館も館内の自助努力に加え、こうした形の中から来館者増につながる要素が芽生えます。これは未来へ向けた地域全体の戦略に通じます。

## 第2回富士川流域王国シンポ開催

そこで、富士川流域ではどのような観光地化が求められるのか、王国が求める観光のコンセプトは何か？を考える場として、4月16日に身延町総合文化会館において「第2回富士川流域王国シンポジウム」を開催致しました。

## 5名の基調報告、7名で討論

基調報告は①「観光立県山梨」の観光行政（山梨県観光部観光企画課長・土屋正文氏）、②

「静岡空港」開港がもたらす波及効果（静岡県企画調査室－小泉祐一郎氏）、③「観光と環境保護について」（山梨学院大学教授・椎名慎太郎氏）、④「歴史遺産を活用した地域活性化プログラムの事例」（つなぐNPO理事長・山本育夫氏）、⑤「富士川流域王国の学習・観光資源」（湯之奥金山博物館館長・谷ロー夫）。つづく討論には上記5氏に、清里・萌木の村村長・船木上次氏と峡南青年会議所理事長・長沢健氏が加わりました。

### 山梨県の観光振興戦略の在り方を解説

#### J1昇格・風林火山は追い風（土屋正文氏）

①の土屋正文氏は、「地域づくりに対しては地域の歴史を活かした地域のアイデンティティの確立が大切」とした上で、「富士川流域王国」のコンセプトを評価、官民が一体で取り組む重要な方向を示唆していると述べられた。そして山梨県が平成16年から「観光立県やまなし」として観光振興戦略を行政の目玉として取り上げ、施策展開の在り方や成果を紹介した。施策の中にある「官民協働の観光振興」では、県と王国のつながりがますます深まっていけばと思うと述べた。また山梨はサッカーのJ1昇格や19年度のNHK大河ドラマ「風林火山」の放送決定で観光にとって追い風を受けているとした。

### 「富士山静岡空港」と命名

#### 王国への観光客は拡大（小泉祐一郎氏）

②の小泉祐一郎氏（王国プランナー）は、静岡空港が「富士山静岡空港」と命名され、山梨県にとっても馴染みある空港となると述べた。近年リージョナル空港と言って100人以下の航空機を飛ばすのが欧米では当たり前になってきているが、そのような空港になる。就航予定先として北海道から鹿児島などの国内各地や台湾や香港、今年度には上海なども決まる予定。空港の立地からみて「富士川流域（王国）」への観光客の飛躍的な拡大が望める。また国際的な観光地化につながる。王国の観光資源の魅力を積極的に情報発信することが望まれる。

### 全国3箇所の歴史景観保存運動から

#### 量観保存は価値を高める（椎名慎太郎氏）

③の椎名慎太郎氏は、北海道小樽の運河と倉

庫群が市民運動で歴史景観が守られ、倉庫群も整備され、いま北海道で一番魅力的な街となった例。また九州の例で筑後川が有明海に出る直前の水郷地帯が汚水に汚染されたが、市民運動で立ち直った例。和歌山県の和歌の浦では、聖武天皇の時代、貴族のリゾート地で知られる場だが、ここに近代の開発の手が入り「景観の価値」などで市民運動がおこったが、敗訴。富士山の環境容量を観光容量が上回っていることを指摘、その上で環境保全は観光資源を高め活性化につながる。住民はそれに誇りをもってもらうことが一番大事。資源を壊さず活かすということで富士川流域王国を育てて頂きたいと述べた。

### 地域には住民が知らない素材が沢山ある

（山本育夫氏）

④の山本育夫氏は、歴史や自然遺産を活用したショートコースのプログラム展開をしているが、住民が何もないと思っている所にも素晴らしい素材があることを指摘した。

### 映像で見る流域は魅力がいっぱい（谷ロー夫）

⑤は私からの報告で、「さあ！、富士川へ行こう」（富士川DREAM）の30分間の映像を上映、王国全体のイメージを膨らまして頂いた。

映像で見る富士川流域には、素晴らしい学習や観光ポイントがあった。

### 観光はコンセプトをきちんと作り守り抜く

基調報告の後6氏（谷口はコーディネイター）による討論が行われた。峡南青年会議所の長沢理事長は「川の都」宣言をし、峡南一帯の活性化運動に取り組んでいるが、身延以南に居住する若者の参加がない。自分たちの町なんだからと積極的な参加を訴えた。清里・萌木の村の船木上次氏は、自分が進めてきた清里の観光は、必ずしも成功しなかった。これからの観光は料理をずら〜っと並べるのではなく「何をやって何をやらない」という、コンセプトをきちんと持つことが大事とした。さらに討論は基調報告の各氏から積極的な意見が出されたが、自分の町の観光プランをお金を払って業者に任すのは疑問。

地域には限りのない観光資源が眠っている。必要なのはそれに気づくことです。

## 第10回特別展「つり人・井伏鱒二～しもべを愛した文学者～」

井伏鱒二先生写真展開催によせて (やまめ床 依田啓史)

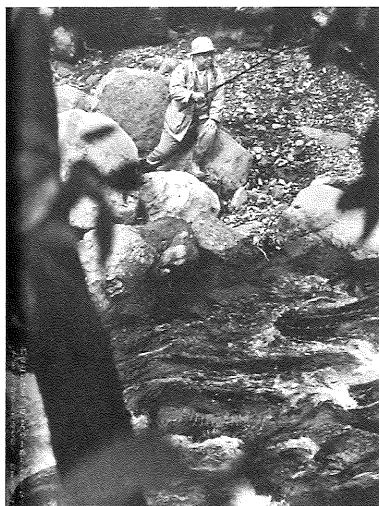
昭和50年頃、『川釣り』という一冊の本が東京の知り合いから父宛てに送られて来ました。“『雨河内川』に「やまめ床」の主人として載っていました”という、添え手紙とともに。

それをきっかけに私は、他にも「やまめ床」が登場する作品があるかもしれないと思い、探してみました。探しているうちに、井伏先生の作品中に、この下部の地がしばしば登場することや、また町内で撮影されている井伏先生の写真も多いことに気がつきました。

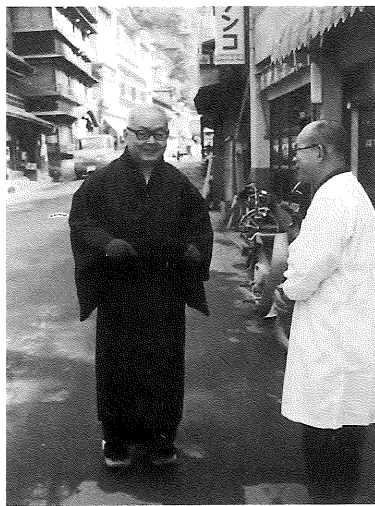
こうした発見が多くなっていくにつれ、「ぜひこの下部で、そして下部にある資料だけで井伏鱒二展をやりたい」という思いが募ってきました。そこで、井伏先生の写真や手紙、はがき、色紙、掛け軸、詩集など、先生に縁のある品々を見せてくれた人たちにこの思いを伝えると、話を聞いてくださった皆さん、そして金山博物館の谷口館長さんも、そういうことなら是非やりましようかと快諾してくださいました。資料集めを続けながら、展示会が形になりそうだと確信した今年の3月、写真の仲間や知り合いに声をかけ「井伏鱒二展実行委員会」を設立しました。

さて、井伏先生のご家族の皆様はじめ、各方面、多くの方に様々なご協力をいただきながら、無事ここに開催の運びとなりましたが、山梨県立文学館様には早い段階から資料集めに関するご指導・ご助言をいただきました。ご協力くださった皆さんに、心より厚くお礼を申し上げます。そしてこれを機会に、多くの人達に、井伏先生と我が町との関わりを知っていただければ幸いです。

最後に井伏先生が、この地と人との深い関わりを持ってくださったことに、深く感謝申し上げます。



増山武久氏撮影  
(『中央公論』より)



増山武久氏撮影  
(山梨県立文学館図録より)

### 協力者一覧

今回の特別展を開催するにあたり、次の方々にご協力いただきました。

井伏節代、井伏鱒二実行委員会、古湯坊源泉館、不二ホテル、遠藤好男、高野 智、高野徳子、伊藤宏代、小林聰一郎、鈴木百枝、渡辺紘一、望月豊昭、鈴木理文、戸門秀雄、正勇釣竿製作所、山梨県立文学館、NHK甲府放送局、山梨日日新聞社／山梨放送、株式会社テレビ山梨、朝日新聞甲府総局、毎日新聞甲府支局、産経新聞甲府支局、下部観光協会、下部旅館振興協同組合、身延町観光連盟、(順不同・敬称略)

年 号	出 米 事
明治31年 2月15日 大正 2年 3月11日 昭和 2年10月 昭和 4年	井伏鱒二、広島県加茂村に井伏郁太の次男として生まれる。本名は満寿二。 依田喜史、山梨県富里村下部に生まれる。 井伏鱒二、秋元節代と結婚する。 井伏鱒二、この頃から下部温泉へ来始める。 私が甲州へ来始めたのは昭和4年ごろだった。下部温泉の守田屋へ1週間ほど投宿した。いまの主人（依田守勝さん）が20歳のころだったと思う。湯札を2枚もらって毎日、源泉館の湯へ行っていた。退屈のぎに、ワラジや化粧品を売っていた小さな雑貨店で安いハヤ釣り竿を買ってアブラハヤ釣りを始めたが、後年、ここでヤマメ釣りを教えてくれたのがヤマメ床（依田喜史さん、健在）だ。 (山梨日日新聞 昭和49年1月3日)
昭和 4年頃	井伏鱒二、下部温泉の源泉館に宿泊。 この宿の若主人は山女魚の釣りが好きで、この前のときも雨河内川の釣場へ私たちを案内してくれた。無口な、おとなしい青年である。ちょうど20年前に私は源泉館にはじめて行き、下部川ではじめて山女魚釣りを覚えたが、いまの若主人は5つか6つの頑でない子供であった筈である。 (『雨河内川』より)
昭和 7年・8年・10年	井伏鱒二、下部温泉に宿泊。 下部鉱泉の古参の男は謂わば浴場のぬしである4年前にいったときも3年前に行ったときも去年の春も、この男は同じ調子で浴客の整理につとめていた。この男はもはや病気もなっているのだろうが、今となつてはその土地から足を抜くことが出来なくなっているだろう。 (『御坂上より』)
昭和 9年 4月	井伏鱒二、下部温泉に泊まり釣を楽しんだ様子を短編「富士川支流」にまとめる。 私は一きわ大きな岩のところまでたどりついたとき、断念して路に出た。そして橋の上に立って、通行人の濡れ手拭を持ってぶらぶら歩いて行く男にその岩の名前をたづねると、『下部温泉で有名な天狗岩です。釣れましたか?』 (『富士川支流より』)
昭和 9年 7月 1日 昭和11年 7月11日	井伏鱒二、下部川で釣りをする。 (『あらくれ』第2巻第7号(7月号)「あらくれ会」欄に発表) 井伏鱒二、下部温泉に宿泊。 この講中は身延に一泊し七面山をお山すると、下部温泉に泊まり甲府の湯村温泉に一泊した講中といつても全部みな家族づれの連中で、旅館では一家族づつそれぞれ一室に寝た。広い部屋には2家族または3家族がいっしょに寝た。下部温泉の旅館は大きくて、1室に1家族づつ収容できるだけの部屋数があった。 (『夏日お山講』より)
昭和12年 昭和14年 昭和14年頃 昭和16年 2月21日 昭和16年 4月	井伏鱒二作品「ジョン万次郎漂流記」(河出書房)で第6回直木賞受賞。 「幽閑」を「山椒魚」(文芸都市)に改作し発表。 井伏鱒二、下部温泉の源泉館に宿泊。 依田喜史、伊藤まさ子と結婚。 井伏鱒二、やまめ床を訪れる。 下部川のやまめ床依田氏の妻まさ子さん(74)は、結婚して2ヶ月後の1941年(昭和16年)4月ごろ、井伏氏を紹介された。井伏先生は『若い人をもらってえかったね』と冷やかしながら、ここにこ笑っていた。身内のことのように結婚を喜んでくださったと振り返る。 (山梨日日新聞 平成7年5月23日)
昭和16年 昭和16年11月23日 昭和17年11月 昭和19年 5月より 昭和20年 7月まで	井伏鱒二、依田喜史が営む床屋を『やまめ床』と命名。 「ヤマメ釣の名人で私が3匹釣る間に12匹釣った。」そのため、やまめ床と命名した。(『中央公論』より) 井伏鱒二、陸軍徴用員として入隊。翌年11月に徴用解除される。 (『日本文学全集32』より) 依田喜史、徴用に行く。 井伏鱒二、下部温泉の不二ホテルを訪れる。 井伏氏は旧幸運村に疎開中、下部に身を寄せ療養していた鳶魚を、友人の作家野沢純の紹介で訪ねている。鳶魚も井伏氏の元を野沢とともに訪れ、親交を深めた。井伏氏の随筆丸木橋(1952年1月『親潮』)は、鳶魚とともに身延山へ参けいした時の様子を描いている。同作が発表されて4ヶ月後、鳶魚は下部町内のホテルでなくなった。 (山梨日日新聞 平成7年6月29日) 井伏鱒二は疎開中に、波高島と久那土に、ハヤとヤマメを釣りに行った。 私も甲州にいる1年間に、ハヤ釣りとはヤマメ釣りをすこしばかり習ってみた。ハヤ釣りは、富士川本流の波高島と、支流の久那土の溪流と、荒川と釜無川と、それから、平等川などで試みた。 (『疎開者不漁』より)
昭和20年 7月 昭和24年 5月 2日 昭和24年頃	井伏鱒二、広島県加茂村に再疎開。 (『日本文学全集32』より) 「雨河内川」が『掘り出しもの』(創元社)に掲載される。 井伏鱒二、下部温泉へ。 また10年ぐらいたってから、最近では、たびたび出かけて行くようになった。私の持病である足痛をこの旅館の温泉でなほすためだといふのだが、これは自分自身に云ひきかせる口實で、大半は山女魚釣りが目的である。 (『雨河内川』より)
昭和25年	井伏鱒二作品「本日休診」(文芸春秋新社)で第1回読売文学賞小説賞受賞。

年 号	出 米 事
昭和26年	井伏鱒二、瀧井孝作氏と雨河内川へ釣りに来た。(写真「日本文学全集32」付録 撮影 田沼武能氏)
昭和29年	井伏鱒二作品「漂流宇三郎」(大日本雄弁会講談社)などで第12回日本芸術院賞受賞。
昭和30年代～	井伏鱒二、下部川にて釣りを楽しむ。(写真 「新潮日本文学アルバム46」)
昭和32年 5月	井伏鱒二、下部へ。(山梨日日新聞 平成 5年 7月14日)
昭和37年	井伏鱒二、栃代川で飯田龍太氏らと釣りを楽しむ。(写真 山梨県立文学館所蔵)
昭和38年春	井伏鱒二、下部温泉へ。 後記 下部鉱泉で浴客の整理をしていた客は、とうとう住みついて、その宿の浴場の番台係になった。 去年の春も私はその人が浴場の番台についているのを見た。「あの人は、ここの名物だそうだと湯壺の客が云っていた。(「御坂上」より)
昭和38年頃	井伏鱒二、下部温泉の常盤ホテル別館に宿泊。依田啓史は父に連れられ、井伏氏の宿泊先を訪ねた。(依田啓史より)
昭和38年 4月16日	井伏鱒二、5人の仲間と栃代川で釣りを楽しむ。山角司、飯田龍太、小林富司夫、宅間正一(撮影者)。 (写真 山梨県立文学館所蔵/作品「川で会った人たら」/記事 山梨日日新聞 平成 7年 5月19日) 一昨年はその釣仲間と甲州の栃代川へ行った。この川は富士川の支流である下部川の、そのまた支流の常盤川の支流である。深い谷の底を流れている。人里が遠くて、人家は鉱泉宿が1軒あるだけだ。4月中旬だといふのに、梅と桃と桜が宿のまはりにさいていた。(「飯田龍太の釣」より)
昭和39年	井伏鱒二、雑誌の取材で下部温泉に来た。源泉館や、やまめ床などを取材した。 ヤマメ床は甲いに出かけて留守だったさうだ。結局、私たちは床屋が帰ってくるのを待って、午後になって私が顔を剃ってもらっているところを写真にとった。(「飯田龍太の釣」より)
昭和40年 1月	井伏鱒二、下部で釣りを楽しむ。(写真「日本文学全集43」撮影 石井彰氏)
昭和41年	井伏鱒二作品「黒い雨」(新潮社)で第19回野間文芸賞 文化勲章受賞。
昭和41年	井伏鱒二、下部川にかかる善隣橋付近で釣を楽しむ。(写真「日本文学全集19」)
昭和41年 8月 1日	下部川と栃代川で釣を楽しむ。 一昨年は天竜川と、下部川とその支流の栃代川へヤマメ釣りに行った。そのつど甲州の釣友三人と一緒にしたが、どの川も見てくれがいいだけで、お互いに不漁であった。(「ヤマメ釣」より) 「下部の湯元」を(中央公論)に掲載。 下部川での私の釣りの師匠は、「ははアここが酒屋だ」という看板を出している酒屋のならびにある「やまめ床」の主人である。ヤマメの習慣や竿の振りかたなど、私は30何年前にこの床屋さんに教わった。今度も私の顔を剃りながら、こうなると髪は貴重だねと言った。(「下部の湯元」(中央公論)より)
昭和42年	井伏鱒二やまめ床にて散髪する。(写真 やまめ床所蔵・撮影 増山武久氏)
昭和42年頃	井伏鱒二やまめ床を訪れる。(写真 やまめ床所蔵・撮影 増山武久氏)
昭和43年 1月	『俳句』(角川書店)の中に「飯田龍太の釣」が掲載 ヤマメ床といふのはヤマメ釣りの上手な床屋である。30年前、私はヤマメを釣りはじめた頃、この床屋さんから釣りかたを教はった。私のヤマメ釣の師匠である。釣の技術が堂に入っている。川面を流れて行く木の葉をねらって振り込むと、その葉の上に餌が乗っている。それほどの技術を持っている。(「飯田龍太の釣り」より)
昭和43年 3月	井伏鱒二、栃代川で釣りを楽しむ。 栃代川では鉱泉宿のずっと川上で8寸のヤマメを1びき釣った。釣友は3人も1びきも釣れなかった。私だけ釣れたのでちょっと具合が悪いと思ったが、リュクサックに鮎の匣箱を持っていたので、ヤマメをそれに活かして下部鉱泉場に持って来て、源泉館の玄関わきにある硝子張りの大きな水槽にあずけて置いた。(「ヤマメ釣」より)
昭和43年 5月14日	三田村鳶魚終焉之地、記念碑の除幕式で井伏鱒二が挨拶をする。(写真 山梨県立文学館所蔵) 下部の近くの波高島に三田村鳶魚翁の碑が出来た。碑文字は、土地の人の要望で海音寺潮五郎が書いた。私は海音寺や岩崎栄などと共に除幕式に行き、ついでに定宿の源泉館に寄った。(「ヤマメ釣」より)
昭和46年	井伏鱒二作品「早稲田の森」(新潮社)で第23回読売文学賞随筆紀行賞受賞。
昭和46年頃	井伏鱒二、下部温泉に宿泊。 やまめ床に来たが主人は祭りに参加のため不在だった、息子の健が井伏氏を下部川(大森館の裏)に案内した。その晩、依田健は父に連れられ井伏氏の宿泊先を訪ねた。(依田健より)
昭和48年頃	井伏鱒二、やまめ床を訪れ主人の喜史と、しばし時を過ごした。
平成元年 1月17日	やまめ床、依田喜史没 76歳
平成 5年 7月10日	井伏鱒二、没95歳 7月12日自宅近くの天沼教会にて密葬を行う。石部尚氏、依田啓史ともに参列する。
平成13年 8月15日	荻窪の井伏家に、やまめ床は家族で訪問した。井伏節代夫人と玄関にて記念撮影をする。
平成18年10月15日	井伏鱒二の長男井伏圭介氏、下部温泉源泉館に宿泊中やまめ床を訪れる。
平成18年 6月22日 ～ 7月18日	甲斐黄金村湯の奥金山博物館第10回特別展『つり人・井伏鱒二～しもべを愛した文学者～』開催。 平成18年 5月 やまめ床 2代目 依田啓史作成

## 活動報告

### 第7回企画展「金を科学する～過去から未来へ～」 3月30日(木)～5月7日(日)

開館10周年記念企画展として開催した「金を科学する～過去から未来へ～」ですが、多くの企業の皆さまにご後援いただき、約1箇月の開催期間を終え閉会いたしました。

私たちの身近な生活の中で、もしも金・銀・プラチナというこれらの貴金属が存在しなかったら、日常生活は成り立たないばかりか世界の産業までがストップするという意外な事実スポットを当て、これらの展示を通して甲州の金の歴史や文化に触れながら、金をはじめとした貴金属の特性・意外性、そして身近な生活や産業との関わりを伝えることを目的としたもので、期間中には各社の協力を得て講演会や実験会などの特別イベントも開催いたしました。

第1弾イベントは4月4日(火)、日本銀行甲府支店による「にちぎん出前教室～おかねの話あれこれ～」を開催しました。教室には町内外から40人以上の親子が集まり、講師の増山総務課長と大森美恵子氏の話に耳を傾けていました。



日本銀行がどのような役割と仕事をしているのかをビデオ紹介した後、特殊発光インキの仕組みや、一億円紙幣や100万円分の500円玉の重量体験、5,000円札樋口一葉パネルでの記念撮影、銀行やお金にまつわる一問一答クイズなど、様々な体験コーナーが設けられました。

参加者一人ひとりに用意された資料の中には特別に、通常では手に入らないお札の裁断屑などもあり、約1時間半の教室の中で、参加者たちは知っていそうで知らないお金の話に興味深そうに聞き入っていました。

第2弾イベントは、4月23日(日)の「光と色のおもしろ実験教室」。対象は小学生で、管内小学校から1年生から6年生までの定員を上回った14人の親子連れが参加しました。

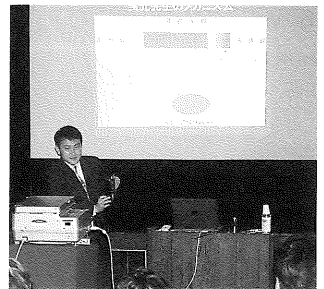
講師は I I E N . Y 地域資源を活かす会メンバー・

山本義人氏で、桜や山吹やたんぽぽなど自然の草花を見せながら、色の種類や、目に映る色というのが何で構成されているのかという話から始まり、“ぶんぶんごま”の工作や、ナスの絞り汁の着色実験などを通じて色の混ざり具合などの勉強をしました。教室後半には、お菓子処“清月”のご協力をいただき、ねりきりのお菓子に色を付け、季節に合わせてアヤメを模した簡単な和菓子や、参加者全員が作りました。テーブルの上には同じモチーフでありながらそれぞれに雰囲気異なるものが並びましたが、皆、楽しそうに作業を進めていました。出来上がったねりきりの和菓子は、専用の容器に入れ、それぞれのお土産として持ち帰っていただきました。



期間中最後となる第3弾イベントは、4月29日(土)に行った「宝石の色と輝き」と題した特別講演会で、県立宝石美術専門学校助教授の高橋泰先生にお話をいただきました。

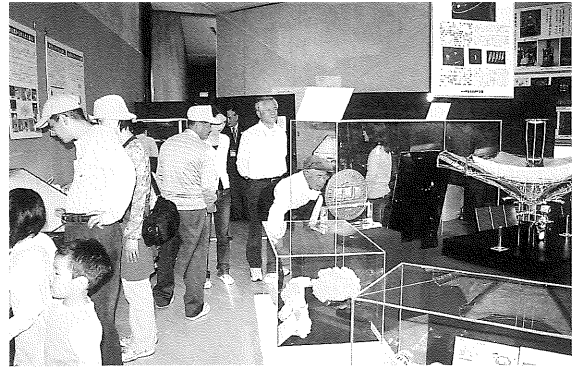
自身のご専門とされる宝石について、まさにタイトルどおりの「色と輝き」について、聴講者全体が楽しめるように1月から12月までの誕生石の宝石を取り上げ、分かりやすく話をいただきました。聴講者たちは、実物の宝石サンプルをカラーフィルターやブラックライトで確認しながら、光の反射具合や輝き方、変色性などを併せ持つ宝石の魅力について、知識



講師の高橋泰先生

を深めた様子でした。また、この講演会の日から企画展最終日までの9日間、ギネスブック認定の世界最大の巨大金貨「ウィーン金貨1,000オンスハーモニー」が企画展示室で公開され、3連休初日ということも重なり、館内は大変な賑わいを見せました。

開催前から開催期間中にかけて多くの新聞やテレビで取り挙げていただいたこの展示会。期間中、展示会とイベントのどちらにも多くのお客様にご来場していただきました。



## 16万人目の有料入館者達成

ゴールデンウィーク真っ直中の5月5日、有料入館者16万人目のお客様をお迎えすることが出来ました。

この幸運に巡り会ったのは甲斐市にお住まいの米山辰雄さんご家族。受付で16万人目の記念入館者となったことを伝えられ、館長から記念品と花束を贈られました。連休中ということもあり、館内はお昼時ではありましたが賑わっており、砂金採り体験中のお客様もその手を休めて温かい拍手を贈ってくださった中での贈呈式となりました。

下部温泉にはよく足を運んでいたが、実は博物館には立ち寄ったことがなかったという米山さん。「企画展開催中のニュースも見ていたので、じゃあ博物館に寄ってみようかということまでやってきたら、こんな偶然に当たるなんて、本当に驚きました。」と、館長から手渡された花束と記念品を手に、驚きと喜びの表情で感想

を述べてくださいました。

館内の記念写真掲示コーナーに飾られている額の数もこれで16枚目となりましたが、この記念式典は博物館運営に関わる関係者の気持の引き締め、節目ともなっています。次の記念入館者をお迎えするペースが速まることはあっても、決して遅くなることはないようにという心構えで、お客様にご満足いただける博物館運営を関係者一丸となって進めていきます。



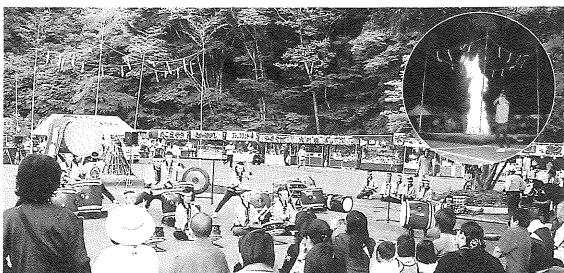
5月5日(金)

## しもべおんせんまつり・松葉杖供養祭

5月20日(土)～21日(日)

古く長い歴史を持ち、昨年から内容をリニューアルして行っている「しもべおんせんまつり」。今年も5月20～21日の2日間、しもべおんせんまつり実行委員会主催のもと、下部観光協会、そして地元の皆さんで、お祭りが盛大に執り行われました。

1日目のメイン会場は昨年に引き続き博物館イベント広場（博物館専用駐車場）でしたが、いよいよ出し物が多くなっていく夕方が近づいてくると、大人も子供も関係なく大勢の人で賑



わい始めました。大道芸や太鼓の演奏、そして地元育成会のお囃子など、出し物は盛りだくさんです。日もすっかり暮れた頃「風林華山」チームによる勢いの良い“よさこいソーラン”の踊りと、川からの風に大きくはためく大漁旗に観客は大いに盛り上がり、観客がチームに混ざって一緒に踊る場面も見られました。

日本三大奇祭のひとつ「松葉杖供養」が執り行われ、会場に積まれた松葉杖に放たれた炎は空高く燃え上がり、その幻想的とも言える様子に観客からは感嘆の声もあがりました。そして1日目の最後を飾ったのは季節的にも一足早い打ち上げ花火。川を流れる不思議な花火も登場し、観客の皆さんは大いに楽しんだ様子でした。

2日目は会場を熊野神社に移し「熊野大神社例大祭」が行われ、神楽奉納と神輿が繰り出しました。懸念された天候も問題なく今年のおまつりも好評で幕を閉じました。



## 開館10周年記念植樹

6月10日(土)

この日の午前中、開館10周年を記念し、谷口館長、博物館職員と博物館友の会関係者で記念植樹を行いました。今年の4月24日で開館丸9年、そして10年目に入ったわけですが、今回の植樹では、寒さに強い木を選び、博物館正面玄関のゲートボールコート法の面に8本のツツジと、砂金採り体験室から見える花壇に30株のアジサイを植えました。

これらの木々が毎日少しずつ成長していくのと同じように、博物館もここに関わる人も、少しずつでも着実に大きくなっていきたいという関係者全員の願いを込めて、丁寧に植えていきました。



## 夏の2大イベント参加者募集!!

湯之奥金山博物館恒例の夏の2大イベント、「第6回こども金山探険隊」と「第6回砂金掘り大会」の参加者を募集いたします。日程は次のとおりです。多くの皆様のご参加をお待ちしております。いずれのイベントも参加お申し込み、詳細のお問い合わせは博物館までご連絡ください。

### 君も金山衆! 「第6回こども金山探険隊」参加隊員募集

現地見学と、粉成、汰り分け・灰吹きという戦国期の鉱山作業を実体験し、3gの純金でオリジナル甲州金を作成。1日目は、湯之奥・中山金山の現地見学と粉成体験、2日目は灰吹き作業と約3gの甲州金作り。出来上がった甲州金は持ち帰ることが出来ます。2日間の体験プログラムで、夏休みの親子自由研究としても好評。申し込み締め切りは 平成18年7月25日(火)までです。

期 日：平成18年7月29日(土)～30日(日)

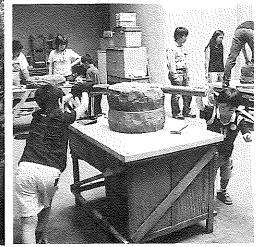
※雨天決行（雨天プログラムに変更）

参加費：3,500円（純金材料費として）

定 員：15人（小学生～中学生まで）

※参加費は保護者・付き添い等の方からは頂きません。

なお、1日目の夕方のバーベキュー懇親会に参加希望される方は、別途大人1,000円、子ども500円頂戴いたしますので御承知置きください。



### 「第6回砂金掘り大会」～平成の砂金掘り師たちよ、集まれ!～

回数重ねて第6回、今年の総合優勝者は誰の手に!?砂金採りの技とスピードを競うこの競技。どこでも行われるような大会ではありません。腕に覚えがある方もない方も一度は参加してみませんか。各部門入賞者にはメダル進呈、総合優勝者には豪華賞品も!

期 日：平成18年8月5日(土)午前9時から競技開始

※小雨決行（雨天の場合は翌日順延）

参加費：大人 500円

中学生未満 300円

（参加申し込み受付は前日まで）

競技種目：ジュニアの部（小学生～中学生）

男女初心者の部（高校生以上の男女）

男女ベテランの部（年齢制限なし）



#### 第3回私学交流砂金掘り大会も開催!

同日、午後2時30分より、西の灘、東の開成、地元山梨より山梨学院大附属、昨年の覇者・駿台甲府、そして新たに東京から海城学園が加わり5校で対決。熱いバトルを繰り広げる選手たちにご声援をお願いします。



## 『金山史研究』第6集・7集 2冊同時発売のお知らせ

県内外にも広く浸透している公開講座ですが、今般、ご講演いただいた講師の先生方のご協力をいただき、公開講座記録集『金山史研究』を発刊いたしました。平成15年度記録集『金山史研究第6集』、平成16年度が『金山史研究第7集』として、発売を開始いたしましたのでご活用ください。なお通信販売も行っておりますのでご希望の方は博物館まで御連絡ください。収録内容は次のとおりです。

平成15年度公開講座記録『金山史研究 第6集』

### 甲斐金山と鉱床学……山金・砂金・芝金を見極めた金山衆の世界…

演 題	講 師 名	書 名
山金鉱床と金鉱石に関する一考察	D・O・Cコンサルタント 原 田 明 氏	『金山史研究第6集 ～平成15年度 公開講座の記録～』  体 裁 A4版110ページ・ カラー図版付  価 格 1,500円 (会員価格:1,300円)
戦国期金山衆の自然理解 ～日本の鉱山地質学の源流～	九州大学 名誉教授 井 澤 英 二 氏	
信州川上村の長尾金山をめぐる	雲南・チベット民俗学会 会 員 由 井 格 氏	
長野県金鶏金山の歴史と地質鉱床	三井金属工業総合研究所資源研究室 室 長 五 味 篤 氏	
富士山あれこれ ～鉱床学からちょっと離れて～	県環境科学研究所自然環境研究部 部 長 輿 水 達 司 氏	

平成16年度公開講座記録『金山史研究 第7集』

### 『産金技術と金』がもたらしたもの……世界遺産登録へ向けた「黄金の国ジパング」の深層を探る…

演 題	講 師 名	書 名
江戸幕府の天領政策と鉱山経営 ～金銀山は天下のやま～	法政大学名誉教授 文学博士 村 上 直 氏	『金山史研究第7集 ～平成16年度 公開講座の記録～』  体 裁 A4版85ページ  価 格 1,200円 (会員価格1,000円)
日本の大開発時代を考える	筑波大学名誉教授 文学博士 田 中 圭 一 氏	
武田信玄の駿河進攻と 甲斐・駿河の金山	静岡大学教育学部教授 文学博士 小和田 哲 男 氏	
産業遺産としての日本の金銀山 ～石見銀山の世界遺産登録をめぐる～	独立行政法人奈良文化財研究所 主任研究官・学術博士 村 上 隆 氏	
自然遺産・文化遺産の保護と活用 ～県民遺産から世界遺産へ～	千葉大学名誉教授・勲日本自然保護協会理事長 工学博士 田 畑 貞 寿 氏	

※通信販売をご希望される方は、商品代金+送料340円(2冊まで)を、現金もしくは為替で当館までお送りください。代金到着を確認し次第、速やかに発送いたします。その際、ご希望書名と住所・お名前・電話番号のメモを同封されることをお忘れのないようお願いいたします。その他、ご不明な点は当館までお問い合わせください。

## 常設展示室鉱石コーナーに展示品追加

このたび鹿児島県の宮内赤石鉱業所の鉱山長・淵脇悟氏より、岩戸金山(鹿児島県枕崎市)の塊状含金銀桂化岩(2g/t)と褐鉄鉱をご寄贈いただきました。岩戸金山は枕崎市の東方3kmに位置し、断続的ではありますが昭和13年～18年、昭和39年～現在までの操業年の中で、およそ10t近い金を産出している日本で操業されている数少ない鉱山のひとつです。

なお、この金鉱石は常設展示室の鉱石コーナーに追加展示いたしました。淵脇様の温かいお心に御礼申し上げます。

## 夏休み親子映画観賞会のお知らせ

夏休みの宿題の片付けに一息ついた頃、博物館では「夏休み親子映画観賞会」を開催いたします。これまでのアンケートで希望の高かった作品や、話題の作品など2本上映いたしますので、どなた様もお気軽にご観賞ください。

期 日：平成18年8月23日(水) 午後1時～

場 所：湯之奥金山博物館映像シアター ※観賞無料(シアター内での飲食・喫煙は固くお断りしております)

上映作品：①「あらしのよるに (107分)」他1本 ※都合により上映作品が変更になることもあります。

## 博物館のメールアドレスが変わりました

博物館のメールアドレスが次のように変わりました。お手数をおかけいたしますが、よろしくお願いたします。

kinzan@town.minobu.lg.jp → yunokin@town.minobu.lg.jp

## 博物館日誌 (平成18年4月～6月)

4月	5月	6月
1日(日) 年度始め	30日(日) 山梨日日新聞取材	30日(日) 中山金山現地案内
4日(水) 「こちぎん出前教室」毎日新聞取材、NHK甲府取材	3日(水) NHKニュースで企画展について放送	28日(日) 川の都フォーラム・パネラーとして館長出席
13日(水) 『館だより36号』発行	4日(木) テレビ山梨『ニュースの星』にて企画展について放送	24日(木) 玉穂中泉内めぐり、新潮社取材
16日(日) 第2回富士川流域王国シンポジウム	5日(金) 有料入館者16万人目	22日(火) 観光連盟会議
20日(木) 八田中ふるさと巡り	7日(日) 企画展最終日	21日(月) しもべおんせんまつり二日目(於博物館駐車場)
21日(金) 山梨日日新聞取材	8日(月) JAXAへ資料返却	20日(日) しもべおんせんまつり一日目(於博物館駐車場)
23日(日) 「光と色のおもしろ実験教室」	9日(火) 赤沢中(笛吹市)県内巡り	19日(金) 松里小(甲州市)遠足
28日(金) 特別展打ち合わせ(於湯町ふれあいプラザ)	10日(水) 白根巨摩中ふるさと巡り	18日(木) 一宮中、竜王中県内巡り、『週刊ポスト』取材
29日(土) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材	11日(木) 御勅使中(南アルプス市)県内巡り	17日(水) 押原中、櫛形中、田富中、県内巡り
24日(月) 開館記念日(開館10年目)、山梨日日新聞取材	12日(金) 赤沢中(笛吹市)県内巡り	16日(火) 白根巨摩中ふるさと巡り
22日(日) SCT取材	13日(土) 山梨日日新聞取材	15日(日) 御勅使中(南アルプス市)県内巡り
14日(水) 特別講演会「宝石の色と輝き」講師・高橋 泰氏	14日(木) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材	14日(水) 御勅使中(南アルプス市)県内巡り
13日(火) 鹿兒島県岩戸金山赤石鉱業所より金鉱石寄贈	15日(金) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材	13日(火) 鹿兒島県岩戸金山赤石鉱業所より金鉱石寄贈
12日(月) NHKテキスト講座	16日(土) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材	12日(月) NHKテキスト講座
9日(金) 開館10周年記念植樹、SCT取材、老平金山下見	17日(日) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材	9日(金) 開館10周年記念植樹、SCT取材、老平金山下見
8日(木) 静川小学校長来館	18日(月) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材	8日(木) 静川小学校長来館
5日(月) 第10回特別展ポスター配付	19日(火) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材	5日(月) 第10回特別展ポスター配付
4日(日) 弥永北海道博物館館長来館	20日(水) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材	4日(日) 弥永北海道博物館館長来館
30日(土) 玉穂中泉内めぐり、新潮社取材	21日(木) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材	30日(土) 玉穂中泉内めぐり、新潮社取材
28日(日) 川の都フォーラム・パネラーとして館長出席	22日(金) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材	28日(日) 川の都フォーラム・パネラーとして館長出席
24日(木) 玉穂中泉内めぐり、新潮社取材	23日(土) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材	24日(木) 玉穂中泉内めぐり、新潮社取材
22日(火) 観光連盟会議	24日(日) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材	22日(火) 観光連盟会議
21日(月) しもべおんせんまつり二日目(於博物館駐車場)	25日(月) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材	21日(月) しもべおんせんまつり二日目(於博物館駐車場)
20日(日) しもべおんせんまつり一日目(於博物館駐車場)	26日(火) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材	20日(日) しもべおんせんまつり一日目(於博物館駐車場)
19日(金) 松里小(甲州市)遠足	27日(水) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材	19日(金) 松里小(甲州市)遠足
18日(木) 一宮中、竜王中県内巡り、『週刊ポスト』取材	28日(木) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材	18日(木) 一宮中、竜王中県内巡り、『週刊ポスト』取材
16日(火) 白根巨摩中ふるさと巡り	29日(金) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材	16日(火) 白根巨摩中ふるさと巡り
15日(日) 御勅使中(南アルプス市)県内巡り	30日(土) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材	15日(日) 御勅使中(南アルプス市)県内巡り
14日(水) 赤沢中(笛吹市)県内巡り		14日(水) 赤沢中(笛吹市)県内巡り
13日(火) 山梨日日新聞取材		13日(火) 山梨日日新聞取材
12日(月) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材		12日(月) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材
11日(日) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材		11日(日) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材
10日(土) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材		10日(土) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材
9日(金) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材		9日(金) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材
8日(木) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材		8日(木) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材
7日(水) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材		7日(水) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材
6日(火) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材		6日(火) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材
5日(月) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材		5日(月) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材
4日(日) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材		4日(日) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材
3日(土) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材		3日(土) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材
2日(金) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材		2日(金) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材
1日(木) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材		1日(木) 朝日新聞、山梨日日新聞、山梨新報、SCT取材

『つり人・井伏鱒二しもべを愛した文学者』  
7月18日まで

### 編集後記



第10回特別展「つり人・井伏鱒二しもべを愛した文学者～」が始まりました。川で釣をしたり、しもべの町を歩く姿など、なんとも風流な様子が伝わってくる写真が会場に並んでいます。この季節にぴったりのしっとりとした展示会です。お近くにおいでの際は是非ごらんになってください。

さて、リバーサイドの紫陽花も綺

麗に色づいていますが、この花の色が褪せてくる頃は夏本番。お知らせにもありますが、夏休みイベント「こども金山探険隊」と「砂金掘り大会」の参加者募集を開始いたしました。こども金山探険隊は、子どもたちの夏休みの自由研究の材料に。砂金掘り大会は砂金採りの腕試しに、どなたでもご参加いただけますので、お気軽にお申し込みください。

## 博物館だより 第37号 平成18年6月27日

〒409-2947 山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館

博物館HPアドレス [http://www.town.minobu.lg.jp/local\\_minobu/kinzan/index.html](http://www.town.minobu.lg.jp/local_minobu/kinzan/index.html) 博物館Eメールアドレス yunokin@town.minobu.lg.jp

# 待ってたよ!

## ぼくらの

# 夏休み!!!



いろんなこといっぱい体験してみたい!!

### 第6回 こども金山探検隊

平成18年  
7月29日(土)・7月30日(日)

戦国時代の産金特産を体験!  
自分だけの甲州金を作ろう!!



オリジナル甲州金

### 第6回 砂金掘り大会

#### 第3回 私学交流砂金掘り大会

平成18年 8月5日(土)  
※雨天の場合 翌日6日(日)

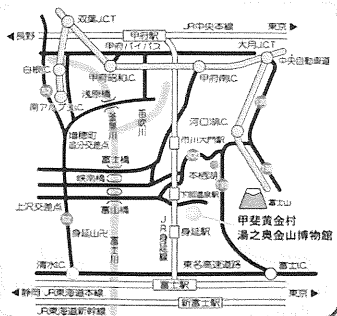
約10kgの砂から制限時間内に砂金を採取する競技!!



ヤマナシマンが  
やってくるよ!



甲斐黄金村・湯之奥金山博物館



### 砂金採り体験 いつでも体験できるよ!

博物館では、いつでも砂金採りの体験ができますよ。  
採った金は持ち帰ることができます。  
てあ、30分間で何粒採れるかな??



問い合わせ先

〒409-2947 山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先 (JR下部温泉駅より徒歩3分)  
TEL.0556-36-0015 FAX.0556-36-0003 <http://www.town.minobu.lg.jp/local/minobu/kinzan/index.html>